

おんが 作業療法物語

～ 脊髄損傷編 ～

工夫を凝らすことで、よりよい生活に



Aさんは高校の体操部の練習中に
段違い平行棒から転落し、病院に搬送されました



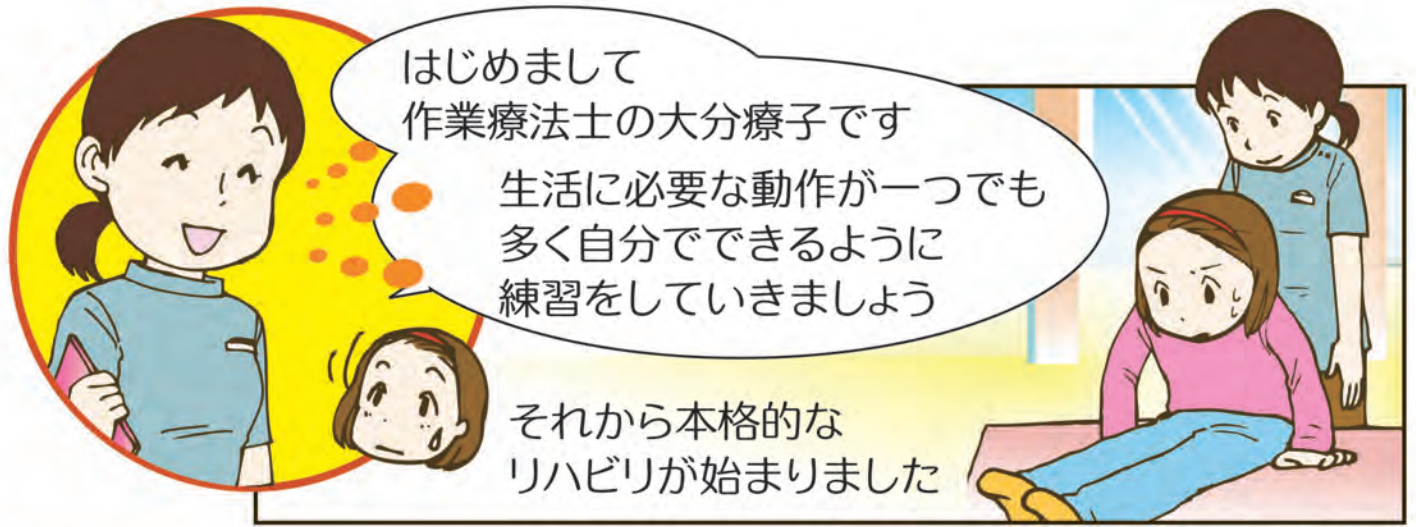
【補足】手首や肘を曲げることはできましたが、指は動かさず、物を握ることができません

骨折した頸椎を固定する手術や、肝炎を患ったこともあり、
Aさんは9カ月間も寝たきりの状態でした



状態が落ち着いた頃、
リハビリテーション病院に転院となりました





はじめまして
作業療法士の大分療子です

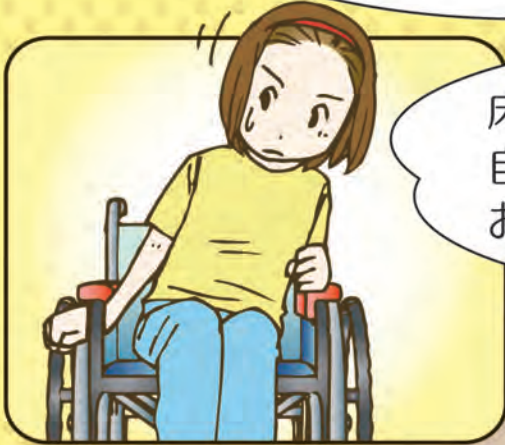
生活に必要な動作が一つでも
多く自分でできるように
練習をしていきましょう

それから本格的な
リハビリが始まりました

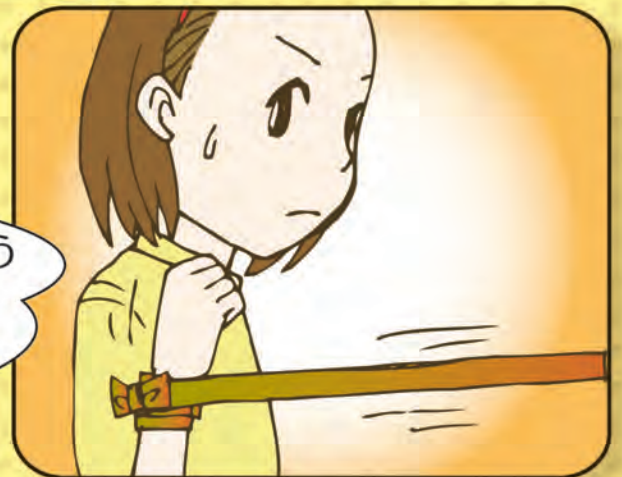
急に起きると
低血圧を起こしてしまうので
少しずつ起こしていきますね
気分は悪くないですか？



床ずれ（褥瘡）ができないように
自分で時間を決めて
お尻を浮かすことが大切ですよ



肩や腕の筋肉をしっかり鍛えましょう
これから A さんの手となり、
足となる大切な能力です！



状態が安定してきた A さんは、
徐々に車椅子に生活範囲を広げていきました

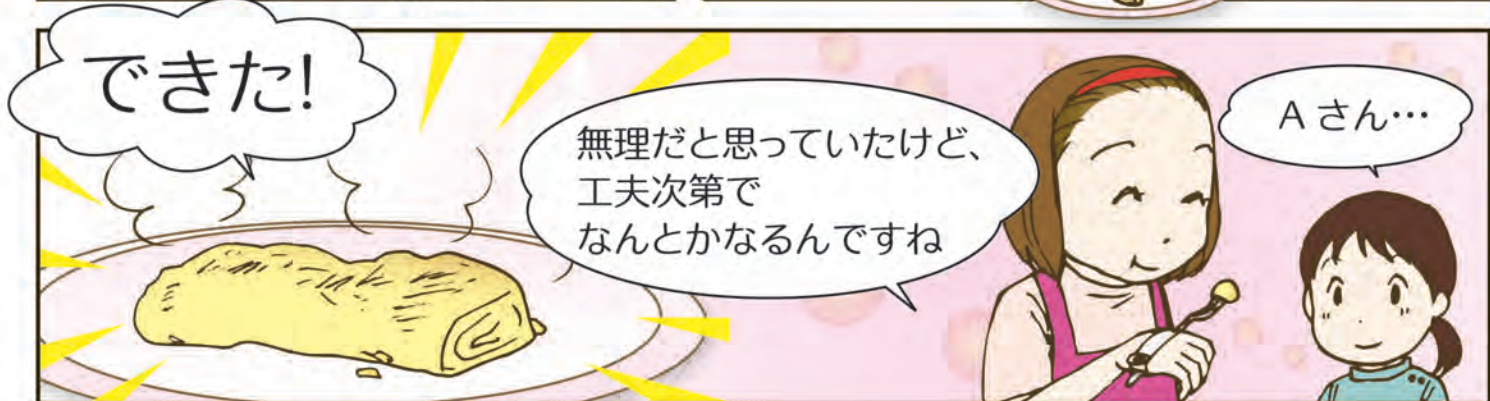
そして、
握ることができない A さんは、
食事など生活場面でも
リハビリを行いました



A さん、
これを使ってみませんか？



女性の A さんにとって、調理の練習も大切なリハビリの一つです



作業療法では、残された機能を活用して日常生活の動作を可能にするために、対象者の状態にあったリハビリや動作指導、自助具や装具を作製したり、福祉用具の選定、環境調整を行うことで、生活の援助を行っていきます

病棟でのある日ー…

療子さん、乗り移る時に
車椅子が動いて危ないのよね

車椅子の前輪が動かないようにするものが
あればいいんだけど…何かない？

そこで二人相談し、
Aさんでも使いやすいような輪留めや、
キャスター止めを作製することにしました

ステンレス製でコの字型
キャスターの上にあるフレームに
引っかけて使う

療子さん、
これいいわ!

車輪止め

キャスター止め

車椅子のバックレスト裏のポケットから
取り出しやすくする為のヒモを、
底面には滑り止めゴムを付けた

いつしか A さんからもアイデアをだすようになり、
療法士と一緒に考えるようになっていました

最近は A さん、何事にも
意欲的になりましたね

だってくよくよ
してられないわ

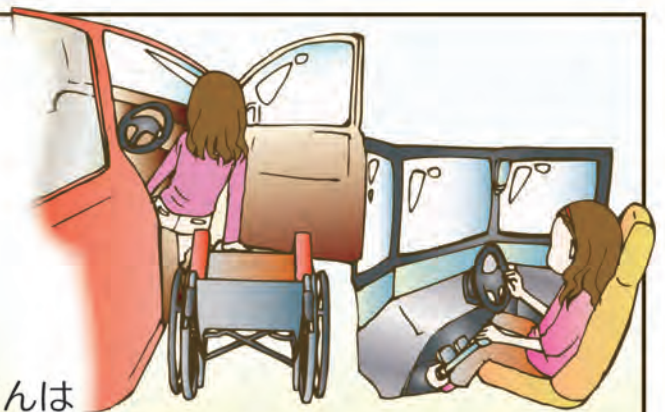
運転の勉強ですか？
社会復帰後は大切ですからね

運転は
難しいでしょうか？

手だけを使ってブレーキや
アクセル操作ができるように
改造した福祉自動車だったら、
リハビリ次第で
できるようになると思いますよ



こうして、Aさんは
車椅子から車への移乗動作訓練、
ハンドル回し等の模擬運転訓練、
公道での教習を行っていました



後は、住む所ね
車椅子でも生活
できるようにしないと…



私も一緒に工事施行業者さんにお会いして、
堀さんに合った、住宅改修ができるように
お手伝いしますよ



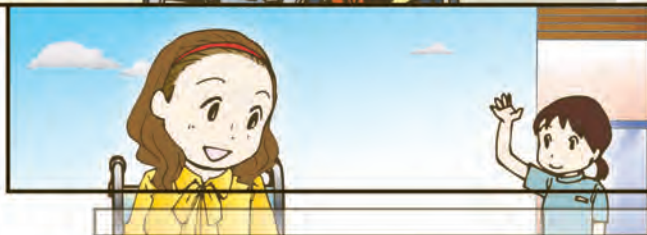
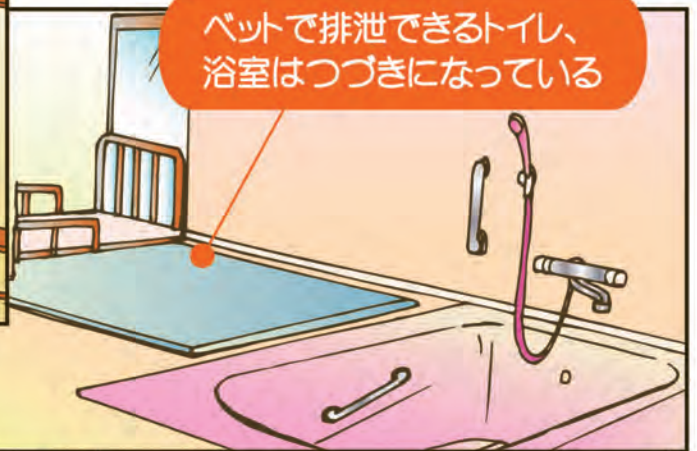
療法士が業者とAさんの仲介に入り、
改修内容を検討して行きました

手を伸ばして届く



車椅子でも調理が行えるように
シンクの下スペースは空洞

ベッドで排泄できるトイレ、
浴室はつづきになっている



高校生で受傷し、突然車椅子の生活になったAさんの精神的なショックは図り知れません

しかし、作業療法を通して
『できることが広がって行く』経験をしたことは、
Aさんが立ち直るきっかけの1つになりました。



退院後もAさんは、結婚、出産、子育てを経験し、
また趣味で始めた絵画でも個展を開くなど、
いきいきと生活しています



今回の、マンガ作業療法は実話をもとに作られました。
次ページのインタビューでは、実際にご本人と担当療法士に登場いただきます。